

平成 30 年度 第 6 回 SD 研修会報告

内 容	SD 合同研修会（救急救命基礎講習）
日 時	平成 30 年 11 月 16 日（金）14:40～15:40
場 所	宮崎国際大学 1-201 教室
進 行	佐土原敦（宮崎南消防署）
出席者	Staff 10 人、Faculty 2 人（別紙参加者名簿）
議 事 内 容	
<p>宮崎南消防署から 4 人の方々に来て頂き、救急救命基礎講習について説明と演習があった。</p> <p>救命リレーとしては、心肺停止の予防、早期認識と通報、心肺蘇生と AED、心拍再開後の集中治療がありますが、今日は早期認識と通報、心肺蘇生と AED について講習します。</p> <p>救急車の到着時間は平均 9 分になっています。場所によって前後しますが、それまでに言われた人が救命処置を行った場合と、しなかった場合では命が助かる可能性は 2 倍近く違う。</p> <p>救命処置手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 周りに危険がないか確認する。（危険な場合などは、安全な場所への移動を行う） 2) 大出血しているか確認する。（30cm 四方形の出血の場合、布当て等の止血を行う） 3) 「大丈夫ですか？」と肩をたたきつつ、意識があるか確認する。 ない場合は、周りの人の 2 人を指定して、119 番通報と、AED を持ってくることを指示依頼する。 4) 10 秒間、普通の呼吸をしているかを、胸から腹を見て確認する。 ☆早く数えてしまいがちなので、呼吸確認のため、しっかり 10 秒間確認する。 呼吸をしていないことを確認して初めて、胸骨圧迫を始める。 （胸骨圧迫） 胸の突起がある下（乳頭の間あたり）に、手のひらの付け根部分をあてる。 姿勢を、視線が腹の向こう側が見えるようにし肩から腕がまっすぐ押せるように、テンポ（1 分 100 回）良く、10 回数えながら 30 回ごとに人工呼吸を 2 回まで行う。 ☆人工呼吸は、無理をしなくても良い。（泡、血などある場合など） ☆大切なことは、胸骨圧迫を継続すること。（救助隊員が到着しても止めない） 5) AED 到着後、 胸骨圧迫を継続しながら、指示に従いパットを肩と胸にピッタリと貼る。 パットのプラグを挿入する。 「体から離れて下さい」の指示が出てから、胸骨圧迫を休止する。 電気ショック終了後、確認して呼吸が戻っていなければ胸骨圧迫を継続する。 <p>以上の内容を、説明や注意事項を受けながら実演した。</p> <p>質問受付に対して、パットの付け方や、雨が降っている場合の対処など真剣な質問があった。</p>	